

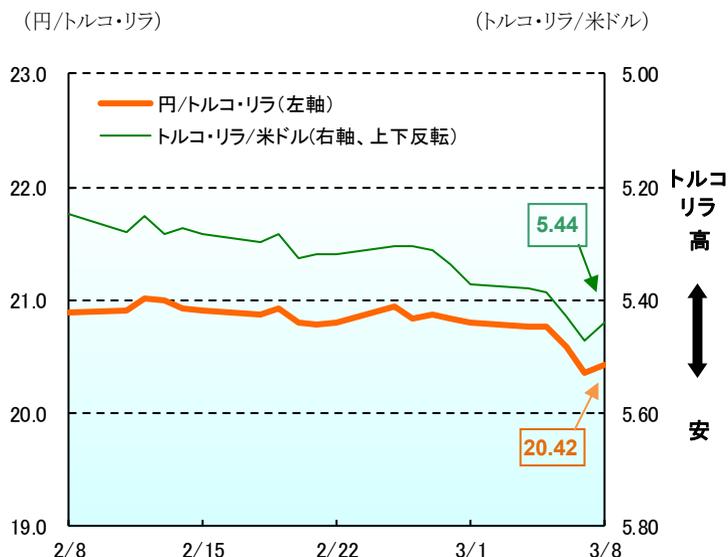
【2019年3月2日～2019年3月8日までの推移】

【1】先週の回顧

先週のトルコ・リラ相場は対米ドル・対円ともに下落しました。トルコの2年国債金利は低下しました。

先週は、3月6日（現地、以下同様）に金融政策決定会合が開催されましたが、政策金利は市場の予想通りに据え置かれたため、市場への影響は限定的でした。しかし、7日のECB（欧州中央銀行）理事会が金融緩和的な内容となったことからリスク回避的なムードが広まり、トルコ・リラは対米ドル・対円ともに下落しました。国債もリスク回避的な動きを受けて一時的に売られ（金利は上昇）しましたが、一週間を通して見ると金利は低下しました。

【トルコ・リラ 為替推移】（2019年2月8日～2019年3月8日）



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

【2】今週の見通し

今週は11日に2018年10-12月期のGDP（国内総生産）が発表され、市場予想より軟調な結果となったことからトルコ・リラは一時的に下落しました。また、鉱工業生産や失業率などの発表も予定されており、経済面では引き続き、インフレ期待や景気の鈍化ペースを確認する局面が続くそうです。3月末には統一地方選挙を控えていることから、政治的なヘッドラインにも注意が必要と考えております。とはいえ、先週のECB理事会以降、米国の雇用統計も軟調であったことから景気に対する警戒感が広がっており、今週のトルコ市場は国内材料より市場のリスクセンチメントに左右される展開となりそうです。

【トルコ 金利推移】（2019年2月8日～2019年3月8日）



（出所：ブルームバーグより大和投資信託作成）

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212（営業日の9:00～17:00）HP <https://www.daiwa-am.co.jp/>